

大正六年四月一日發行

婦人子ども

第十七卷

第四號

フレーベル會

# 第十七卷第四號目次

學ぶべき春.....

お話の材料は何處に求むべきか.....久留島 武彦

幼児の好む色.....安 井 智

幼稚園保育趣旨及び細目(米國沙市).....岸 邊 福 雄

新保育期に當りて.....

横濱小學校附屬幼稚園  
生祥幼稚園  
坂出幼稚園  
誠之小學校附屬幼稚園  
東京府女子師範學校附屬幼稚園

灌佛の話.....村 尾 節 三

七不思議.....み な と

## 本誌定價

一册 郵税共金拾參錢 六册前金郵税共七拾貳錢  
拾二册同金壹圓四拾四錢 郵券代用一割増

## 購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

## 本會宛御用務

本會宛請般の御用務は左の如く願ひます

庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレーベル會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々木山谷一二四倉橋惣三宛

大正六年四月一日印刷 納本

大正六年四月一日發行

編輯兼發行者 倉 橋 惣 三  
東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

印刷者 東京市本所區番場町四番地 功  
印刷所 東京市本所區番場町四番地 功

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内  
印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場

發行所 フレーベル會

# フレーベル紀念日講演會

一、四月二十一日(土曜日)午後一時より

二、東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて

一、講演

音樂の味ひ方 (蓄音器による名曲の説明)

理學士 田邊尙雄君

斯道の權威たる田邊理學士の平明周到なる講話、蓄音器による多數の名曲の演奏、趣味と智識とに充てる此の講演は、何人にとりても最有益に、最感興豊なるべきを信ず。多數諸君の來聽を希望す。

四月

フレーベル會

顧問 高島平三郎先生

# モドコ

## 本誌の四大特色

子供繪雜誌は玩具であると同時に教科書であります。お子様方がコードモを御覧になつてゐる間に物事を覚えお行儀がよくなること不思議な位です。

まじめで教育的なこと  
繪が叮嚀で美麗なこと  
お話が易しく面白いこと  
片假名のみで讀易いこと

□ 定價 一冊十二錢  
□ 郵 税 五 厘  
□ 六冊郵税共六十九錢  
□ 十二冊 郵税共一圓三十一錢  
□ 總て前金の事  
合 本 定 價  
各集郵税共五十錢

東京市小石川區  
林町五十七

**コードモ社**

電話番町六一八  
振替東京二七九六三

合本出來

大正三年七月號より  
同 三年十二月號まで  
大正四年三月號より  
同 四年六月號まで  
大正四年七月號より  
同 四年十二月號まで  
大正五年一月號より  
同 五年六月號まで

# も　ど　子　と　人　婦

大 正 六 年 四 月 一 日  
第 十 七 卷 第 四 號

學ぶべき春よ。春の力よ。

春は偉いなる教育者である。此の偉大なる教育力は、天地すべてのものに自發的開張の力を興へて、もの皆啓き、解け、發せざるはない。萌芽は生え出で、堅き蕾は解け、蟲は蟄を啓いて出る。生々育々、生きて動かざるはない。

夏には夏の教育力がある。秋には秋の教育力がある。しかも啓發、解誘の教育者は春である。即ち春は自然の幼兒教育者である。

欲しいものは春の化育の力である。頑な冷い地殻を和げて、そこに若草を萌えしむる力である。花を開かせる力である。鳥を歌はせる力である。蝶を舞はせる力である。

あゝ春は今天地に充つ。保育者の學ぶべき春、保育者の欲しい春の力は四方に充ちて居る。來れ愛する幼兒達よ。而して我が春の力の中に、生えよ、開けよ、歌へよ、舞へよ。

# お話の材料は何處に求むべきか

早蕨幼稚園長 久留島武彦

私は保母の方々から時々「お話の材料は何處に求めたらいいでせうか」といふやうな質問を受けることがあります。私はこれまで斯ういふ問ひに接する毎に何時も自分で適當と思ふお話の集めてある本をお知らせして來たのでありますが、この頃になりまして古事記の神代の巻が幼稚園時代の子供に對して實に豊富なお話の庫であることに氣が附きましたので、前に述べましたやうな質問をなさる方々には「古事記の神代の巻をお讀みになつたら如何でせうか」といふやうなお答へをすることにして居ります。

西洋にも却々面白いお話は澤山あります、西洋の諸國はそれ〴〵獨特の神話傳説を持つて居ります、而してその國の文學と切つても切れない關係

を持つて居ります。西洋の神話傳説は相當に批評眼の備つた大人が之を讀む時にはその神話を持つ國民の國民性を窺ひ知ることが出來たりなぞして非常に參考にもなり、興味も深いのであります、しかしこれを何物でも素直に受け容れる幼兒に話して聞かせる段になると彼等に興味を起させることが出來るか否かの前に、民族的素質の異つて居る西洋諸國民の神話傳説を無批判的に日本の子供の世界に紹介することの些か輕舉に失する傾きのあることに注意が拂はれねばならぬであらうと思ひます。

古事記は言ふまでもなく、我々の祖先の一番最初の、飾りなく語られた素朴な歴史であります。その時代に於ける我々の祖先は、今までの日本國

民の發達の上から言ふと、丁度幼稚園時代に在るものであります。幼兒はその相當時代の藝術をよく理解することが出來ます、何故ならば、それは幼兒に取つて出來過ぎた藝術ではなく、彼等に丁度適應した藝術であるからであります。古事記は天地開闢から天御中主、神以下鵜葺草葺不合、尊までを上卷とし、神武天皇以下應神天皇までを中卷とし、仁德天皇以下を下卷として居ります、いづれを取つてみても、興味津々たるものがありますが、幼兒に話すものとしては、殊に上卷、中卷あたりが面白いやうに思はれます。

古事記の記事は言ひつぎ語りつぎして、我が祖先の間に殘されて來た日本民族勃興史を千餘年も經つて後に始めて編述したものでありますから隨分怪奇妄誕に類するやうな部分のあることは否まれません。従つてこれを全然史的事實とすることは六ヶ敷いでありませうが、而かも尙私達は古事記の記事によつて、我々の祖先の生活狀態を推知

し、その理想の純潔であつたことを讚賞するに難くはないのであります。古事記は實に日本國民に取つて、千古不磨の大歴史、大藝術であると申しても差支ないのであります。

我々と同じ血を持つてゐた我々の祖先に關する斯くまでに興味の深い、刺戟的なお話に充たされて居る古事記を顧みずに、徒らに遠きにのみ、お話の材料を求めやうとするのは些か本末顛倒の感がないでもありません。私達が古事記を生かしてお話するとき、兒童達は何時にも、瞳を輝かして熱心に聽き惚れるのであります。

古事記は本居宣長の古事記傳（四十八卷）を始めとして、註釋書はそれこそ汗牛充棟も當ならずといふ有様でありますから、今日我々が古事記の傳ふる内容に接することは實に容易であります。古事記を基として之をやさしいお話に書きかへた本が今日では既に澤山發刊されて居ります。私の書齋にあるものだけでも次の數種に上ります。

高木敏雄著

建國神話

高木敏雄著

日本神話物語

高木敏雄  
小笠原省三合著

日本國民傳説

數野掠十著

日本  
神典 古事記  
新編

松本愛重校閱  
飯田弟治譯

新譯日本書紀

最後の「新譯日本書紀」は古事記に依つたものではありませんが、古事記と同じやうな我が國の憑據的な古典を取扱つて居るといふ點で御參考にまで擧げたのであります。

私は兒童をよく理解して居る文學者が古事記を全體に亘つて適當に書きかへてくれるといふと思つて居ります、これは實に價值のある仕事であります、日本を愛することの最も熾烈な文學者は逸早くこの仕事に赴くべきであるやうにさへ今私には思はれるのであります。何故ならばそれはルネ・バザンをして佛蘭西の子供の爲めに「ラ・ドウス・フランス」の一巻を書かしたと同程度若しくは以上の愛國の情によつて裏付けられなければなら

ぬ仕事であるからであります、而して斯る仕事が日本國民にとつて最も望ましい仕事の一つであることは言ふまでもありません。

私は又、十八史略や史記列傳や漢書や蒙求の中に幼稚園の幼兒に話すのに適したお話の尠くないを附加へてお知らせして置きたいと思ひます。

是等の書は我々より一代前位までの智識ある日本人には大抵親しまれたのでありますが、近頃はあまり讀まれぬかして話題にも止らぬやうであります。殊に是等の書からお話の材料を獲て來て、やさしく分りよく幼兒に話すといふやうなことは殆んど皆無と言つてもよい位であります。

私は先日、汽車の中で、ボーイの持つてゐた新撰漢文讀本といふのを一寸借りて見ましたら、例の「蘇武持節」のお話が出て居ました。何心なくいゝ加減に頁を繰つてゐた私はこの時、不圖、「これは實にいゝお話だ、話しやうによつては確かに幼兒にも分るお話である」と考へました、そこで



早速函館へ行つた時、子供達に蘇武のお話をする  
ことにいたしました。幸ひに大變受けがよかつた  
やうであります。その時のお話の筆記が今私の手  
許に來て居ますから、少し長くなりますがお目  
かけませう。支那は外國とはいへ、我國とは同文  
同種の國で、昔から深い關係がありますので、そ  
の神話傳説の如きも割合に日本人の氣質にしつ  
りと合ふのであります、それで蘇武が天皇の爲め  
に節を曲げなかつたなどといふお話は幼兒にもよ  
く理解されるのであります、

### ○雁が郵便配達になつた話

支那と云へば、日本のお隣の國。其の支那の國  
に、昔むかしずつと昔武帝と云ふ天子様がありま  
した此の天子様は、大變好い天子様で、御家來を  
お可愛がりになるばかりか、外の國の人でもよく  
氣をつけてお遣りになりましたので、誰でも此の  
天子様の爲めなら、如何な事でも爲て上げやうと

思つて居ました。

ところが此の天子様の御領分のずつと北の方  
に、廣い砂原のお國があつて、其また北に廣い  
廣い別のお國があつて、其のまた北に廣い別  
のお國があるのですが、其處は一年の半分は雪に  
埋められて居るのですから寒い、不自由なお國  
です、其の寒むい國に住んで居る者の事を匈奴と  
云ひその王様の事を單于と申して居りましたが、  
此の王様は、意地の悪い癖のよくない質の方で、何  
でも人の嫌がる事を平氣でしては喜んで居る、そ  
して時々は大勢の悪い家來を連れて、砂原の國を  
横斷つては北方の國に入つて來て、人や金を攫つ  
て行つたり、羊や豚を盗んで行つたりするので、  
皆困つて居りました。

武帝は、此の事をお聞きになると、憎い奴だ一  
つ兵隊を連れて行つて攻亡ばしてやらうかとお考へ  
なさつたが、根がお氣質の良い天子様ですから、  
直ぐに考へ直して、これは單于の國が寒い國で何

も出来ない處だから、他處の物をとる様な考へになるのであらう。平素の悪い癖を直して、此方と仲の好い國になれば、欲しい物は何んでも送つて遣るのにとお考へになつたので、其事を言聞せるために、使をお遣りになる事になりました。

此お使に選まれたのは、蘇武と云ふしつかりした御家來でした何しろ意地悪の王様によく／＼解るやうに言聽かせてやるお役目ですから、通常の人では出来にくい事です。蘇武は此大事のお役目を命令けられると、早速家に還つて、お父様とお母様とに御相談を爲て見ました。

蘇武のお父様は、天子様の仰せならば、如何な事でも爲なければいけない御家來も澤山有る中に、お前が選み出されたのは名譽の事だとお賞めになり。お母様は大事のお役目だから身體をよく氣を付けて、天子様に御返事を申上るまでは死ぬ様な事があつてはいけませんよと、よく／＼言ひ聞かせました。

愈々蘇武が出立する事となりますと天子様は、蘇武に美事な「天子からのお使ひ」の節しるしを下さいました。

蘇武は幾日も／＼かゝつて、砂原の國を通りぬけ、それから復幾日も／＼かゝつて匈奴の國に参りました。そこで王様の單于に遭つて天子様からのお言葉を傳へますと、意地悪の單于は、鼻のさきで笑つて、何を生意氣な事を云ふ慾しければ盗みに行く、取りたければ取つて來るのだ、お前の國の天子様などに頭を下げて貰うには當らないと、取つてもつかぬ挨拶で、お使ひの蘇武は其儘大きな害の中に投込まれて了ひました、其暗闇の害の中は氷の窟に入つたやうで、身に浸み込むやうな寒さが耐へがたい上に、喰べる物とは何もないので、蘇武は段々弱つて行きました。斯して弱らせて、殺して了はうと單于は考へたのです。

蘇武は此事を思ひますと出立の時にお母様が言つて下さつた言葉を考へ出しました。大事なお役

目だから、御返事を天子様にする迄は死んではならないと云ふ事です。蘇武は弱つた腕を取りしばつて、

「これは如何しても死んではならない。」

と考へました。併したべる物は何もない。喰る物はなくして如何して生きて居やうかと考へて居りますと、不圖思ひ付いたのは、此窖に投込まれる時、牢番が一緒に入て呉れた一枚の羊の皮の敷物です。左様だ、此の毛でも食べれば食べられない筈は無いと思ひましたので、それから飢じくなれば毛皮の毛をむしつては食べて居りました。

牢番は食物を遣らぬのだから、もう死んだ頃だと窖の中を覗いて見ますと、蘇武は端然と坐つて横に「天子様のお使の節」を置いて大きい眼を開けて居ります。

「おや／＼此奴は變な奴だぞ、何も食べないで生きて居るとは不思議な奴だ」と先づ牢番が驚きまして、段々上役人に申立てましたので、皆寄つて

來ては覗いて見ますが、幾日經つても一向に死ぬやうな様が見へません。蘇武は入れられた時の姿を其儘、端然と坐つて居りますので、匈奴は少々氣味が悪くなつて來ました。

「あれは普通の人では無いせ。」

「喰はず飲まずに生きて居るとするとひよつとすると仙人と云ふのかも知れないせ。」

と段々評判が高くなつて、これが王様の單于の耳まで入りますと、殺すつもりで窖に入れて死なぬやうでは入て置いても甲斐が無い、それならば引出して連れて來いと云ふので、蘇武は單于の前に引出されました。

蘇武は相變らず、武帝から賜つた「天子様のお使の節」を持つて悠然と單于の前に立ちました。

單于は蘇武に「如何だ降参しないか、降参して立派な役目にして使つて遣るが」と云ひますと、蘇武は莞爾笑つて「私の手に持つて居るのは何ぞ御座いますか」と聞きました。單于は「それはお前

の國の天子からの使の節よ」と云ひますと、「其節を持つて居る私は武帝の使者です。武帝の使者は武帝に還る事は知つて居りますが、他に御奉公する事は知りません」と答へました單子は眞赤になつて怒つて。

「それ程武帝の下に還りなければ此の羊が乳を出すやうになつたならば還して遣る。」と云つて、蘇武に百頭ばかりの羊を渡しました。そして此の湖のそばで勝手に飼へと云ふ命令です。

蘇武は斯うして害からは出されましたが、寒い／＼北の湖の畔で毎日羊を飼ふ事となりましたが、相變ず食べる物は無い。それでも害の中より勝<sup>まさ</sup>なでの、草の實を搜して喰べ、土鼠を捕へては喰べて、早く飼つて居る羊が乳を出すやうにと氣をつけて居ますが雪が降るやうになつても、何の羊も乳を出さない、其の雪が消えて無くなつても羊の一頭も乳を出さない。

餘りの不思議さに蘇武は、一頭々々よく調べて

見ますと、何の羊も皆牡羊ばかりで、一頭も牝羊は居ないのです。

お母さんになる羊は居ないのです。蘇武は失望して死んで了はうかと思ひました。これでは何十年何百年飼つて居つても乳の出る羊は居ない、乳の出る羊が居なければ自分は天子様の下に還る事が出来ない、そうして此の雪の荒れ野原の中で、一生涯過ごさなければならぬならば寧ろ死んだ方がよいかも知れない羊の群の中で呆然と立つた蘇武の眼からは、涙がホロ／＼とこぼれました。

恰度此の時蘇武の頭の上を棹になつて南の方に下つて行く雁の群が、が／＼と啼いて行きました。蘇武は不圖頭を上げて、此の姿をながめますと、何と思つたか莞爾と笑ひました。そして元氣よく湖の邊に行きました。

天子様は、蘇武を匈奴に使者におやりになつてからは、毎日其の還つて來るのを待つてゐらつしやいました。國は随分遠い國、途は随分不自由な

道で、其の湖には人も居らねば、草も木も生へて居無い砂原の廣い／＼國があるのですから、これを通つて往還を爲すのは随分長くかゝるのですが一年経つても蘇武は還つて來ませぬ。花が咲いて花が散つて、木の實が熟して木の實が落ちて、冬になつても還つて來ませぬ。春になつても還つて來ない。其の冬も其の春も二度も三度も、五度も七度も兩方の指を皆折つて了うまで數へても蘇武は一向に還つて來ませぬ。

天子様は御心配なさつて、二度目の使をやつて蘇武は如何して居るかと聞かせに遣りますと、匈奴の返事は、もうそんな人は疾うの昔に死んで了つたと云ふ事でした。

何處で死んだか、如何して死んだかと聞かせて見ましても、其後是一向に返事も爲ないのです。天子様は如何も蘇武は死んで居りさうには思召さぬのですが、尋ねる工夫も無くて困つて居らつしやいました。

ところが或日武帝のお子様は御獵にお出でになつて、雁を澤山射つてお持還りになりました。そこで早速お臺所の者にお料理を仰付けになりましたのでお臺所の役人は羽を引くやら毛を焼くやらして居ますと、一羽の雁の足に何か結び付けた物がありました。

「おや、これは變な物が附着いて居るぞ。」

と、その脚に附いて居る物を取放して見ますと、古い／＼垢のついた布の端に草の實の汁でゝも書いたのか薄い字のあとが見えます。これは不思議な物が括り付けてあつたと、早速上役の者に差出しますと、此の古布に書いた文字こそ匈奴にお使者に行つたまゝ死んだと云はれた蘇武からの手紙の文字で、今も生きて、此の湖邊の雪の中で羊を飼つて居ると云ふ報せの意味です。これを御覧になつた天子様は如何なお喜びになつたでせう、早速三度目のお使者に澤山の兵隊をつけて蘇武を迎ひにやりました。

匈奴の方では相變らず蘇武はもう疾くに死んでしまひましたと云ひますと、お使者は雁の脚に附いて居つた布のお手紙を出して、これでも蘇武は死んだと云へますかと申しましたので、匈奴も最早僞言を通す事が出来なくなつて王様の單于も平あやまりに謝罪り澤山の品物を出してお詫のしるしに蘇武に持たせて還しました。

蘇武はお父様のお賞めを受けたゞけの名譽のお使者として立派に天子様から賜つたお使者の節を護つて還つて來ました。尙お母様のお言葉をもつて役目を果すまでは身體を大事に氣を付けて、害の中にも死なず、雪の中にも凍えず、立派に還つて來たのですが長い間の心配と、辛い困しみに遭ひましたので、髪の毛も鬚も皆眞白になつて、お父様の前に立つた時何方がお父様か解らなかつた程でありました。

天子様は蘇武の忠義な精神と智慧のある働きをお褒めになりまして立派な役目にお取立になつ

て、それから一生仕合に過ごしました。

此の事からして、お手紙の事を、雁の玉章とも雁信とも云ふ事となりましたそうです。(なほり)

簡潔な漢文の傳へるお話は幼兒に向つて話す場合には、話す人が餘程敷衍して、具體的に話さないといふ効果が舉りません。それ故蘇武のお話なども餘程具體化してあります。

蘇武があれほどに艱苦して「天子のお使の節」を守つてゐたといふことは西洋の幼兒には一寸理解されないかも知れません。しかし日本の幼兒にはよく理解されます。「天子様のお爲めに」といふ言葉は、日本に於ては、幼兒にも實によく理解されるのであります。これは日本國民として忠君といふことを感情としても長い年月の間に遺傳的に養成させられて來た結果でありませう。故に君に忠親に孝といふやうなことを訓へた支那のお話は、大抵そのまゝ取つて來て我國の幼兒に話して聞かせることが出来るのであります。(文責在記者)

# 幼兒の好む色

東京女子高等師範學校  
附屬幼稚園主事

安井哲

一、幼兒は一般に如何なる種類の色を好むか、又其好むところの色は、彼等の年齢、男女、或は其

以上の實驗に依りて得たる結果は次の表に示すが如し。

家庭の生活狀態にも何等かの關係を有するものなるかを調査せんと欲し、モンテッソーリ女史の色彩感覺の練習用色絲卷の中、赤青黃綠紫橙の六色を撰び、是等に依りて左の如き實驗を行ひたり。

第一、八等級の濃度を有する赤青黃綠橙紫の六色に就き、其最も濃き者、即ち第一等の濃度を有する者を各幼兒に示して、好むところの色を指示せしむ。

第二、第四等の濃度を有する同じ六色に就きて各兒の好むところの色を指示せしむ。

第三、第七等の濃度を有する同じ六色に就きて各兒の好むところの色を指示せしむ。

淡		中		濃		濃度 色 の 類 別 男 女	組	第一部 (生活程度の比較的高き者)	第二部 (生活程度の比較的低き者)
女	男	女	男	女	男				
2	II	1	I	2	III	赤	一の組 (六歳前後)		
1	III	3	III	2	IV	紫			
4	I	4	III	2	II	青			
5	V	4	IV	3	III	綠			
3	II	3	II	1	I	黃			
5	IV	2	IV	4	V	橙	一の組 (六歳前後)		
1	III	2	II	1	III	赤			
3	I	2	III	2	III	紫			
1	II	3	II	2	I	青			
2	III	2	I	2	II	綠			
2	II	1	I	3	III	黃			
2	III	1	III	2	IV	橙			

淡		中		濃		組	淡		中		濃		組
女	男	女	男	女	男		女	男	女	男	女	男	
2	II	2	I	1	III	三の組 (四歳前後)	1	I	1	III	1	IV	二の組 (五歳前後)
3	III	3	II	3	I		2	V	3	IV	2	IV	
3	III	5	I	4	IV		2	III	2	II	2	I	
4	IV	3	III	3	II		2	III	2	III	3	III	
4	III	4	II	4	II		3	II	2	IV	4	II	
1	I	1	I	2	IV		2	IV	4	I	4	IV	
1	II	1	II	2	IV	三の組 (四歳前後)	1	IV	1	III	1	IV	二の組 (五歳前後)
2	II	2	II	1	III		2	I	3	I	2	I	
1	II	3	I	2	III		2	III	3	II	4	II	
2	III	2	I	2	I		3	III	2	III	4	III	
2	I	2	III	3	II		3	II	2	II	4	III	
1	II	3	II	2	IV		3	II	2	III	3	III	

備考一、表中の濃、中、淡は各色の濃度を示すものにして、「濃」は最も濃きもの、即ち八等級中第一等の濃度、「中」は第四等、「淡」は第七等の濃度を示すものなり。

二、表中の羅馬數字は、與へられたる色の中より同じ色を選択したる各部各組に於ける男兒の總數を其多きに從ひて順序立てたる者、即ち其順位を示すものにして、算用數字は、同じく女兒の場合に於ける順位を示すものなり。

右の表に就きて幼兒と其最も好む色との關係を観察する時は次の如し。

		一部(男兒)	二部(男兒)
四歳前後	赤中、紫濃、青中、橙中、淡	青中、綠濃、中、黃淡	
五歳前後	赤淡、青濃、橙中、	紫濃、中、淡、	
六歳前後	赤中、青淡、黃濃、	紫淡、青濃、綠中、黃中、	



	一部(女兒)	二部(女兒)
六歳前後	赤中、紫淡、黃濃、	赤濃、淡、青淡、黃中、橙中、
五歳前後	赤濃、中、淡、	赤濃、中、淡、
四歳前後	赤濃、橙中、淡、	赤中、淡、紫濃、青淡、橙淡、

右の表に依りて再び次の事實を観察することを得べし。

第一、男女と其最も好む色との關係に就いて觀察するに、男兒は各年齢及第一部第二部を通じて、殆共通に好むところの色は青にして、女兒は共通に赤を好む。

第二、年齢の異なる幼兒と其最も好む色との關係に就ては、明なる差異を認むること難し。

第三、生活程度の異なる家庭に育ちたる幼兒と其最も好む色との關係に就ては、

一、生活程度の比較的高き家庭に育ちたる男兒は、生活程度の比較的低き家庭に育ちたる女兒

と殆ど同種類の色、即ち概して赤、青、黃及び其系統の色を好むが如し。

二、生活程度の比較的lowき家庭に育ちたる男兒は、概して青黃及び其系統の色を好むが如し。

### ○お断り

本號には「新保育期に當りて」なる研究問題に對して諸幼稚園から戴いた回答記事が豫想外に豊富でありました爲めに、忽ち編輯者の目算に狂ひを生ぜしめて、記事輻輳といふ盛況を呈するに至りました。しかしそれが爲めに菅原先生の「色彩の心理」を特に本號に於て割愛せざるの止むなきに立ち至りましたことを先生並びに讀者諸氏に深くお詫びいたします。尙岸邊先生の「沙市幼稚園保育趣旨及び細目」は來月號に於て完結すべく、その細目は我國保育界の實際的方面に他山の石として好箇の參考資料を供するでありませう。(記者)

米  
シャートル市幼稚園保育趣旨及び細目（千九百十五年制定）

—（承 前）—

東洋幼稚園長 岸 邊 福 雄

フレエベルは『無關係とは、無教育の謂なり』  
と言つて居る。同情的の指導によれば、兒童に世  
の中といふものゝ互に助け合つて居るものであ  
る事を、確に悟らしめることが出来る。

兒童は幼稚園のお囀、會話、唱歌、遊戲、手工、  
散歩、動植物の世話等の練習によりて、如何に總  
ての事物が、互に善の爲に働いて居るかを知ら  
のである。

又兒童は如何に一人の働きが、總ての他の多く  
の人々を助くるものであるかを知り、又如何に動  
物が、人間の役に立つか、又植物が人間及び動物  
の爲になるかを知らるのである。

又太陽と水とは、あらゆる生命に必要欠くべか

らざるものなる事を知り、又兒童は、農夫の田畝  
に蒔きたる小さき種子が、太陽、雨、及び土地の  
助けによりて、パンになるまでの話を知り、又、  
雨が太平洋から太平洋へと旅行する話を喜んで聞くで  
あらう。

斯くの如くに一步一步注意深く作られたる劃策  
によつて、幼稚園は幼兒の無意識時代を指導して、  
將來のあらゆる人生の源泉を、意識的に賞鑑する  
に至るの時代に引繼ぐのである。

幼稚園の保姆は、日課の準備をなさざる可らざ  
るが故に、一年中に授くべき事の全般を測定しな  
ければならぬ。これには、先づ一年中の仕事を各  
學期に配當し、そして尙此學期に於ける毎日の保

育を、前以て考案して置かねばならぬ。

幼稚園日程の準備は、左の二要目の下に考へられる。

第一、**児童教育**。其日の總ての課程を注意して考案する事。児童教育方面の書籍、雜誌を系統的に讀破する事。育兒法に就いて書かれたる最も有益の雜誌『幼稚園』を毎月注意して熟讀する事。

第二、**自修法**。教師は、毎日己の人格を高からしむる事に注意し、尙、向上的の生活をなし、毎日の義務を遂行し、他人を教ふるに忠實なるべく、益々大なる愛と智識とを確取する様自ら激勵せねばならぬ。さすれば、不言不語の間に、その感化力によつて、児童を最高の境地にまで導くのである。

博士ウヰリヤム、ハリス氏は、『フレエベルの法式の最大なる功績は、教師に對し深き人生の哲理を供給したるの事實にあるので、彼の多くの教授法

式の如きは、單に教室管理の綱目を供給したるに過ぎないのである』と述べて居る。

### ○家庭、幼稚園、學校

吾人の家庭は實は家庭のみに止まらずして一方に於ては又同時に學校たらざる可からず、而して児童はその兩者の間に居らざるべからずと云ふやうなことを考へ始めた人々がある。實に家庭は児童の爲に家庭と學校との合體したものでなければならぬ。幼稚園は一の特殊學校ではない、幼稚園教育の根底を成して居る主義は言ふまでもなく總ての教育の基礎原理と一致吻合するのである。

幼稚園の保姆は児童の家庭周圍を知らなくてはならぬ。而して母と教師との間には最も親しき關係の存することを必要とする。或土地に於ては幼稚園教師が毎月二時間児童の家庭を訪問するの規定を設けて居るが誠に有益なことである。又児童

の親達の幼稚園に來訪することも獎勵する様に爲さるべきである。

第一、學級學校教師と幼稚園保姆は相互にその用ふる課程を熟知することが必要である。之が爲めに兩者は時々打合せを行ふやうにすると効果があるに違ひない、而して第一學級と幼稚園の二組の生徒が遊戲を共にすることもあり、又一緒に散歩に出かける日もあるであらう。かくて上級生徒も時々幼稚園を訪問することによつて益を得ることがあるであらう。

幼稚園に於て兒童に建ること、書くこと、模倣すること、會話、唱歌、遊戲等を授けるのは皆、兒童の生得の衝動力によるので、それを補助する爲に種々の資料及び問題を供給するのである。智、情、意の發達は兒童の心の自然の開發によつて發達するものであつて、漸次に第一學級の程度に易々と接近する様になるのである。

## ○會話とお嘯

會話は思想を表示する主要の手段の one であり、且つ思想を形成するに大切な要素であるから、毎朝なす會話は特に注意吟味すべきである、而して全年を通じてその題目の漸次向上を要する。

會話及びお嘯の爲に着席する前、兒童は教室の近くにて運動するをよしとし、着席して後僅かに指の運動を行はしむるがよろしい。かくして後兒童に靜かに坐つて居ること又會話或はお嘯に注意して居る様にと要求すべきである。此規則に従はざる時は兒童は興味を失ひ易く不注意の惡習をなすに至る。指導會話と自由會話又は自由會話とお嘯の間には兒童は走ること、跳る事及其日の題目を模倣すること等が許さるべきである、又會話の時は註釋の手段によつて家庭と幼稚園との連絡をとるべきである。會話の時間を四部に分つ。即ち

(一) 指導。正規の題目。繪畫。唱歌。詩を用ふ。

(二)指導、興味ある臨時の題目

(三)兒童の自由會話

(四)お嘶或はお伽詩

(一)教師は新しき題を紹介し、而して其前の題に於ける關係を説く、而して兒童は新智識と深厚なる同情心とに指導せらるゝのである、教師は質問を試むべきである。而してその質問は正しき簡潔なる語を用ふべく、終りに臨み兒童をして人間の互に相依ること及びそれに對して感謝の念を起さしむる様簡單なる結論をなすべきである。

強き兒童に時を專有させてはならぬ、弱き兒童には特に注意して目をかけてやらねばならぬ、兒童は決して他の兒童の談話をさへぎり邪魔をしてはならぬ、總ての兒童に話す機會を與えてやる、而して兒童は幼稚園に種子、花葉、繪、小石等を携帯することを獎勵せられる。

兒童の言葉に文法の誤ある場合には之を正してやり漸次進歩したる話の出来る様に導いてやる

「はい」「いゝえ」を略する事を許してはいけない。

(二)各兒童は話す爲に時を與へらるべく、簡單なる禮儀に注意せしむべきである。兒童は如何なる場合にても他人の話中に割込み妨げをなすこと許されてはならぬ。保姆は各兒童の趣味に同情的な態度を取らなくてはならぬ。

(四)お嘶或はお伽詩は毎朝之をなすべく、お嘶は新しきもの或は既になしたるものにて差支へない、餘りにお話が多過ぎる時は兒童はそれを自己の話とすることが出来ないから不可である。嘶と詩の割合は話五十の間に詩十を授けるやうにする。お嘶はよく吟味し、且それを上手になすべきである。お嘶は單に事實を述るに止まらずして文學的に價值のあることを要する。お嘶は同情的且表情的の調子になさなくてはならぬ。而してその種類には、注意深く撰擇した滑稽もの及び卑近な周圍に例を取つた自然界のお嘶が澤山ある程よろしい。

## ○唱歌及遊戲

幼稚園にて用ふる唱歌は簡單にして短かく且つよく吟味されたものでなければならぬ。もし餘りに多數を選出する時は兒童は之等に親炙することが出来ない、之に反して又餘りに少數なる時は種類の少き爲單調をまぬかれないであらう。唱歌を授くる前には歌詞と音楽とを充分に準備練習して置き、保姆が先づ數回之を演奏し、歌つて聞かせたる後に、兒童をして之を歌はしむべきである。保姆は兒童に唱歌を授くる前唱歌に關する趣味を覺醒しなくてはならぬ、例へば唱歌が鳥の唱歌なる時は兒童を散歩に連れ行き鳥の歌ふを聞かしめるとか又は兒童に鳥の繪を見させるのである。『唱歌は經驗を説明するの一方方法であるから概言すれば經驗に次ぐか或は之に伴はなくてはならないのである。かくして兒童の經驗したことよりも一層新しく、一層理想的の事を知ること助けなければ

ばならぬ』伴奏は軟かく演ぜらるべく、時々は伴奏なしに唱歌を行うてもよろしい。兒童は軟かに歌ふことを教へらるゝ方がよろしいが、さりとて餘りに弱くして興味のなきは宜しくない。保姆は望む丈の種類の撰出し、日々の題目に關係ある唱歌を用ふべきである。

遊戲時間を表現遊戲及熟練遊戲に分つ。表現遊戲の題目を兒童の心に明にする、その爲め、もし出來得るならば兒童を散歩につれて行き遊戲の題目たる實物に接觸せしむるがよい。而して遊戲はなるべく兒童の計畫にまかすべきである。

一定の形式を具へた遊戲ばかりでなく又一定の形式を備へない、手近の周圍を模倣する數多の小遊戲をも採用するがよろしい。兒童は家庭内の仕事を模倣することが出来る、又屋根の上或は山上を越えて飛ぶ鳥を、歸宅して見し事を話す時、模倣することが出来る。又父母の爲に野花を集め、又はクリスマスの木を得る爲めに森の中に遠足す

ることも出来る。

遊戲中にも世の中の互に相關連し居ること及び互に相依ることを示すやうにする。兒童は常に人の職業を好み、又植物動物の生活を模倣すること面白く思ふ、季節の遊戲を屢々用ゐるがよい。秋には樹木の葉は變色して落ち、樹木及花は休憩しやうとする。多くの鳥は暖き所へ行き、風の音や雨滴の音が聞え、幾日も日光を見ないことがある。春には植物界は又忙しく、種子は覺醒しはじめ、鳥は歸つて来る。夏が来る時分になると多くの鳥、蜜蜂、蝶及び花が現はれて来る。兒童は派手な色合の花を集め乍ら鳥の囀るを聞き、又蜜蜂の鳴く聲や木の葉のすれ合ふ音を聞く、暖い風の吹くにつれて、雨滴を見ることが少くなつて行き日光は毎日見らるゝやうになる。

是等の遊戲はピアノの助けによつて演ぜらるゝ、時は普通成効するものである。兒童は群に投じて、己の欲する役を擇ぶ。親鸞鳥の歌及嘶は之を芝居

化すると面白い。

兒童全體が一時に演ずることの出来る遊戲を行ふと同時に又少數の兒童によりて演ぜらるゝものも行ふべきである。全體の兒童が成るべく出来る丈多く毎日出演する様にする。又種々な熟練遊戲表を作つて置くとよい——跳廻ること。走り足。飛ぶこと。一足飛。ビョン／＼飛ぶ事等。兒童の總ての筋肉を運動せしむる様に心掛ける。しかし過勞せしめてはいけない。此時間には出來得るならばなるべく窓を開放する方がよい。又天氣の許す限りは運動場で演ずると一番よい。

『お休み』時間にも常に注意することは又大切なことである。通例保母は此お休み時間の間、低く唱歌し、又は演奏するがよい。(つゞく)

# 新保育期に當りて

△各組に對する保育上の方針と

△新入園兒に對する種々の經驗

われ／＼は又茲に新保育期を迎へると共に、いろ／＼の問題に遭遇します。その中でも是非はつきり考へて置かなければならぬ問題、事實目の前にぶつかつて來る問題として、左の二つの問ひを諸幼稚園にお尋ねして、お互の有益な參考にし度ひと思ひました。お忙がしい處を斯く／＼とお答へ下さつた各幼稚園の方々に厚くお禮を申し上げると共に、お互も銘々によく考へ度いと思ひます。

(第一)年少、年長、各の組に對して、保育の計畫及實施上それ／＼如何なる區別を立てらるゝや。  
(第二)新入園兒に關する御經驗のいろ／＼。

## 第一

當園では常にともしれば都會生活の弊として、浮薄な觀念の培はれ易いのを防ぎたい爲に、幼兒に對して、眞面目であれ、元氣であれ、忍耐づくよくあれ、といふ事を申して居ります、それは其年齢により其要求する程度こそ異りますれ、どの組

横濱 横濱小學校附屬幼稚園

に向つても、かくありたいと考へて居ります、さらば實際上如何なる風にして居るかと申しますと當園では最年長の組二組と中の組と最幼年の組とを合併した一組とを持つて居ります、これは別に意味ありてではなく、單に設備の上からやむなく斯様にしたもので御座いますが、幸にして只今ま



での所では多少保姆の手腕は要しますが却て好結果を得て居る様に存せられます。

最幼年の組の幼兒に對しては充分に遊戲能力を擴張させたい即ち出來得るだけ四圍を整理し、美しき空氣の内に何等顧慮する所なく、充分に其活動力を満足させてやりたいといふ希望を持つて居ります。

これはどの組に對しても持つて居る考へではあります、特に最幼年の組に向ては此考へを深くいたします、それ故御部屋も一番奇麗に裝飾してやりたい、保姆も可成やわらかに接してやりたい、そしてふうわりとした美しき環象の暗示と純なる模倣性と相俟て善良なる習慣の基礎と物に憶せぬ進取の氣象とを養ひたいと想ひますが要するに此組は養護といふ方を主とする様な傾となつて居ります。

中の組に對しては、單に養護といふ方面ばかりでなく訓練的方面へと進ませて參りますが、此組

に於ては出來得るだけ自己を充分に發展させ得る遊戲へと導きたい、そして組の成立の上から年少者を勞ると云ふ事を常に心掛けさせて居ります結果として食事の際とか、共同遊戲の際などに家族的な優しい感情を養ひますのに誠に都合よくいつて居ります。

又此時期に成るべく正しき語句を語り得る様、時に應じて其矯正につとめます。

次には自治の習慣で御座います。此組の時代から幼兒に出來る事は皆自分でさせる様に仕向けます、例へば玩具の整頓、辨當の持ち運び、羽織の紐を結ぶなどは保姆の手をわづらはさぬ様にさせます。

次には努力心の養成で御座います、幼兒は常に周圍から勞はられ過ぎます結果、ともすれば努力心がにぶり勝となりますので、之を除き何事も仕てのけるといふ元氣と勞働を樂しむ習慣とをつきたいと存じまして幾分勞作的の遊びへと導きま

す、砂場に於て共同的に大きな規模のものを作つて遊ぶとか、組中こそつて砂場の掃除をして遊びます。砂場用の大小の篩で、石や葉などのまじつたのを除くもの、一生懸命に砂を篩にはこぶ者、それは元氣によくいたします。美しくふるはれた砂をながめながら「明日もしませう」などと申て喜んで居ります。

最年長の組の者には、最幼年の組、中の組に於て申しました事を一層其範圍を押しひろめ、深みあるものといたさせます外、前に申述べました眞面目といふ事を第一に置いて保育いたして居ります。

次には注意力、忍耐力の増進を計ります爲めの遊びをあらびます、例へば我慢くらべ（一分より次第に五分間位まで延して沈黙と正しき姿勢を守らせます）右左のあそび、時計のあそび、色輪のあそびの様な類で御座いますが、此等は單に注意や忍耐力の増進ばかりでなく、沈着とか敏捷とかいふ方面をも養ふ事が出来ると存じますし、一方

此時代の幼兒の必然の要求とも申すべき智識欲に對しても幾分の満足を與へることが出来まして幼兒も大層喜んでいたします。

又以上の遊戲を與へますと同時に多少鍛練的にも申せうか、少しく規律たらし模倣體操のやうなもの又は競走遊戲などをまじへますし、又意志の發表にもならさせます。

此外細い事を申ましたなら限りも無い事で御座いませうが、要するに最幼年の組は養護を主とし、中の組は之にやゝ積極的に訓練的色彩を添へて参ります、最年長の組は積極的に眞面目なれ、忍耐強くあれ、元氣であれと願ひつゝ保育を進めて行きます。

## 第 二

新入園兒に關する經驗と申しても、經驗の少い身には御參考になる様な事も御座いませんが、一二氣付きましたこと、又當園で致してをる事の片端を申上げようと存じます。

幼児が始めて家庭を離れて幼稚園生活に入る時の心持は可なり複雑なものであらうと思ひます、よし幼児の氣質により差違がありますにせよ、境遇の變化に伴ふ當然の刺激は免れ得ないものであります、其處に幼稚園教育の目的が存して居るにしても、充分の心持を考へてやらなければなりません、そして温かなる保姆の同情心と理解により、家庭から幼稚園へ滑かに進ませて第一幼児を安心させ、幼稚園を愉快な居心地のよい處とさせなければならぬと存じます。

かくて入園當初の緊張した心地をのんびりとさせ自然と幼児をして其天真を保姆の前にあらはさせる様にさせて居ります、此爲に新入園児のため園に馴れて居る者の内から適當した友達を見出してやる様にし又一方幼児に適當した遊びを與へてやります。

見出してやり、與へてやります爲には幼児の過去の生活と幼児の環象とを明かにしなければなり

ませんので、當園では入園と同時に幼児の身體及精神の狀態、家庭の狀況とを調査することにして居ります、これは大體の項目を定めてある用紙のそれ／＼の欄に記入してもらふ事にはして御座います、が充分なことが判りませんので、入園の當初には父兄に是非來てもらひまして懇談をすることにして居ります、これは入園の初めといふものは、家庭の人も緊張した教育的の心をもつて居りますから此時をはずさず打とけた談話の内に充分に家庭の人に幼稚園といふ者を理解してもらひます。

是は餘程効果のある事の様に想ひます、然し身體や精神の狀態を聞きますにしましても、正面からでは單なる答のみで御座いますので、側面よりとでも申ませうか、睡眠狀態、食物の好惡、遊戲の種類、交友狀態といふ方面から段々と聞いて参りますと其性質の原因する所なども明かになつて来る様に想はれますし、家庭の者もはなし易い様に推せられます。

かくして第一歩として新入兒を安心させ其天真を充分に現はさせ、第二歩として家庭の人の心を

促へてしまひます、此二つが出来ましたならば保育の半は達せられたと申してもよいかと存まじす。

### 第一の御問ひに對して

當園では四年以下の子供は募集せざる故滿四年より五年迄の組と滿五年より六年迄の組との二種なり。

(1)、體育的方面に就きては概括的にして、年長、年少何れも大差なし、唯子供の發育狀態によりて各遊戲の時間、活力の強弱に注意をなす事等にして凡ての玩具は自由に與ふれど、彼等は自ら相應せるを遊ぶ、即ち繩飛びの如きも年少組はさまで歓迎せざるも一の組の女兒は頗る得意に遊び居るなり。

(2)、訓育的方面の躰も各組同一要目にして、要點

### 京 都 生 祥 幼 稚 園

は朝會の時、全般に語り聽かせ、それを更に各組相應に具體的に申きかす事とし、他は個人的に其人其時に應じてなす、一般的に云へば年長組は年少組に比して其實行力に就きての保姆の監督を深くす。

(3)、其他の遊戲は幼兒の能力の發育程度に準じて其豫定を定むる事左の如し。

滿四年より滿五年迄の一ヶ年間

(談話) 1、昔話、2、繪本の説明、3、偶話、

4、自然界の現象に就きて。

(唱歌) 1、年長組の歌ふ唱歌を聽覺へて誤まれるを訂正す、2、簡易の事物に就きて教ふ、3

保姆の歌ふを聴かしむ。

(畫方) 最初は黑板に、後には紙と鉛筆を與へて描かしむ。塗抹時代を利用して、山、海、野原等に色を塗らしめ、或は一面に塗色せしめて、其紙を色々の形に切抜きて與ふ、其他自由に畫かしむるは勿論なり。

(其他の手工的遊戲) 1、先づ其遊びに就きての興味を養ふ事、2、各玩具の取扱方を知らしむる事、3、保姆と共同しての製作、4、保姆の模範に従ひての製作、5、好みの物を自由に作りて樂しむ。

滿五年より滿六年迄の子供

(談話) 年少組の豫定の外に、歴史話を加へ、尙言語の練習に際しては保姆は特に誘導に注意する事。

(唱歌) 新しき歌を二ヶ月に三種位づゝの割合にて教ふ。

(畫方) 幼兒の發表機關としては有力なるもの故

之が成績には比較的大なる注意を以て觀察す、  
1、自由畫、2、形體を與へて臨寫せしむ、3 記憶畫樣のもの、4、想像畫樣のもの、5、簡易物體の寫生。

(其他の手工的遊戲) 1、幼兒自身に凡ての準備をなさしめ、尙製作後の後片付をもなさしむ、2、保姆の命により同一のものも作る、(例へば飛行機と云ひても、單葉、復葉、大小等は任意にして唯飛行機と云ふ點に於てのみ同一ならしむ)、3、保姆の示せる形體に擬して作る(其物の形を觀察して作らしめ、大小には關せぬ時と大さを一定して作らしむる時とあり、4、保姆の描きし繪を見て其を實物として表はさしむる事あり。

右の外年少組には繪合せ、年長組には七巧板等を同一時間に玩ばしむる事もあり、尙積木は全部の形體を混同して玩ばしめ、板並べも同然なり。斯かる場合には何時にても幼兒自身の年齢と同じ數

だけづゝ數回にとらしむる規定なり、年長組の終りには字かるたを與へ、おはじきは銀杏を用ひ、主として一の組の女兒によるこぼる。個性觀察には有力なる材料なり。

要するに、年少組は遊び其ものに就きての興味を養ふを目的とし、即ち談話はおとなしく聽く事が好き、唱歌はきまりよく歌ふ事が好き、畫方にあるては靜かに繪を見る事が好き、且畫く事も好き等の如し。年長組にありては凡ての遊びに對して眞面目に落着きてなさしむる事、即ち何事にも其物に對しては全力を向けて懸る、一生懸命にするてふ習慣の養成を目的とす。且其等の製作物の材料の撰擇より製作後の後片付まで彼等自身に責任持ちてなさしむ、例へば貼紙の時は入用の紙の色の撰擇、缺、水等凡て自ら調へ來り、其紙の切り方並に貼り方の順序も幼兒自身の思考によりてなさしむ、斯くして出來上りし後は、各玩具は舊の位置に戻し、残りし水の始末もなすてふ如く、

其遊びに就て始終あらしむ。

## 第二の御問ひに對して

新入園兒の取扱も初めの一ヶ月間は全く自由として朝會の如きも椅子によりて見せしめ、彼等自ら、其興味起りて自分もなさんと思ひし處にて仲間入をなさしむる方其成績よろし、さまで進まぬに無理に仲間入せしめて遊戲等をなさしむる時は生半可通にて加はる故に却つて何時迄も間違生じ易し。

附添の如きもあまり保姆が干渉せずに附添はしめて置く方が子供も全く安心して早く離る、之に反して中途にて無理に受取らんとせし兒は安心せずして長く離れず、是等を考へ合すれば新入兒には先づ第一に彼等の變りし生活に安心を與ふる事が大切なり。新入園兒の凡てのわづらひは彼等の小さき胸の不安より來る事多し、之は保姆の同情、保姆の愛より外に慰安の道なし。

## 第一の問ひに對して

私の園では、幼児の實際生活を基礎として、其の性格の發展、指導を計る方法として、園内に於ける起居、動作や、疊、建具などの、設備も成るべく幼児の日常生活と、密接の關係を保たしめ、園内生活をして、家庭や社會から、孤立させない様にします、即ち園内生活の總てが、善良なる保育の方法として、統一せられる様にしたいと思ひますので、これに關した二三の點を申し上げて、御批正を仰ぎたいと存じます。

### 一、起居

幼児の實際生活を善導する第一歩として、家庭生活に接近さす爲め、室内は疊敷として、自發的、相互的の間に一家族の如く、平和と慈愛と權威とを保ち、室内の起居、動作に慣れさす様

に努めて居ります。

### 二、食事

晝食の時、各兒に食膳をあてがひ、年長者には、配膳や後方付など、年少者の世話をさせ、友愛の心を養ふと共に、食事の作法に慣れさせます。

### 三、誕生、節句

保姆や園児の誕生當日には、其組の保姆や園児が一緒に集つて、誕生の歌を歌つて、人生の門出を祝ふと共に、將來の幸福を祈り、又、三五の節句には家庭や社會の行事と連絡して、園内にも雛人形や大將人形を飾り、園児に其の氣分を味はせ、國民的心性の陶冶を計る様に努めて居ます。

### 四、洗濯

土と水とは、人類の進化に、直接關係の大なる

もので、其の利用の道も頗る多いものであります。從來私の園でも砂場や池の利用を計つて居ますが、本年からは、洗濯場を設けて、年長者には手巾や前掛くらいなもの、洗濯をさせたいと思つて居ます。

五、その他手技、唱歌など園内生活の全部を成るべく、幼児の實際生活を、基礎として、年長に従ひ、心身の發達に應じ、家庭生活より漸次に學校生活や、社會生活に順應する様にしたいと努めて居ます。

## 六、擔任

保母は常に教師として、親として、友達として、幼兒に接せねばなりません。特に年少者には、親として、友達として、親しく接する必要が、一層多いと思ひますから、成るべく育兒の經驗の多い保母が之を擔任する事にして、年長組の方は、少々規律的生活に慣れさす爲め、比較的年若き元氣な保母が之を擔任する事にして居ます。

## 第二の問ひに對して

新入園兒は百余名も入れますから、保母も幼兒の名を直ちに配憶する事は出来ません。入園の際幼兒の入るべき部屋の入口に標色を揚げ、其の色と同じ徽章を作り置き、これを與へ胸につけさせます。各擔任保母も受持幼兒の知り易き様、同じ徽章を附し、幼兒を取扱ひます。部屋の入口には赤なれば赤の大きな裝飾をなし、子供が一見してすぐわかる様に致します。のみならず、帽子かけ、傘棚、下駄箱、玩具に至るまで其方法をとりますから、大勢の割に混雜も少なく、自然幼兒も馴れて來ます。附添人の事も園よりは余り干涉致しません。なるべく幼兒の自由意志にまかせ、思ふ時期まで附添はしめ、自然に放れるのを待ちます。又中途にて歸宅せんと欲するものはこれを許し、常に幼兒をして、家庭にあらしむると同じ感じを味はして居ます。

多數の子供の中には雜多の性質のものが混つて



居ます。入園當時其取扱ひに困難致しました實例をお話し致します。或る七才の男子にて、家庭の都合上少しく後れ、六月一日から入園致しましたが、一見して快活らしき幼兒なるにもかゝらず、毎日下女に伴はれ、會集のすむ頃を見計ひ登園致します。そして廊下の隅に立ち、部屋を見物して居るのみにて、一向入らうとも致しません。いろ／＼と云ひ聞かしても『先生がお部屋に居られると何だか恥しいから入りません』とて、柱をつかまつて廊下に座り込んでしまひます。下女もこの方は家ではまがりと云ふ仇名を以て居られる程で、皆々困つて居ますと、いつか保母に告げました。かくして、じつと様子を考へて居ますと、元より幼稚園は好きなのですから、保母が部屋に居りません時には室内に入り、他の子供と話し合つて居ります。しかし入つて來ますと逃げ出しますのです、殆んど困つて居りました。それで、いつまでも捨て、置けませんから、或日其子供の側へいつて、

貼紙の方形臺紙を示しました。これは筋のたくさん入つた美しい紙です、この中へ丸をかいたら、さぞきれいでせうネ。あなたが明日からお部屋へ入つたら、丸を一つ附けて上げませうかと約束しました。其子は翌日いつもより早く登園致しました、ニコ／＼とうれしそうな顔をして居りました。時間が參りますと、何心なく部屋に入りました、保母はすかさず赤鉛筆にて大なる丸を附け與へ賞めてやりました。もし唱歌や遊戲が友達と一所に出來たら、二重の丸を上げませうと申しますと、子供は好奇心にかられ、小さき聲にて、先日より聞いて居つた蛙のうたを歌ひ始めました。かくして二重の丸が二三日繼いで居りますと、或日其子供が『先生私はあすから一人で來ますからどうか三重の丸を下さい』と頼みました。保母も得たりと大變喜んで、翌日から三重の丸を退出の時に附し與へました。それから性質も追々とよくなり、臺紙に一ぱいになる時分には、余程よき子供にな

つて居りました。只今にては身體智識の方面もだ  
ん／＼發達し、中途の入園兒なるにもかゝはらず、

却つて四月以來の入園兒に優つて來ましたのを大  
變心うれしく感じて居ります。



## 第一の問いに對して

今回フレーベル會編輯部よりの御問に對し、二  
三のお答を具體的に少しばかり書くことに致しま  
した。

當園にては幼兒定員數を百二十名とし、年齢に  
より最幼年一組最年長級二組にして、何れも四十  
名づゝに編制し、談話は季節と最幼年及最年長の  
組別により一定の徳目を定め、一週に一回或は二  
回と、其時々際に際し偶發の事項等の談話をもして  
居ます。

唱歌及び手技等の材料も季節により適當なるも  
のを採り、フレーベル主義及モンテッソーリ主義

香川縣坂出町

## 坂出幼稚園

等を採用して、幼兒興味の進行に従ひ種々に變更  
して居ます。

幼兒入園後半ケ年即ち第二期の中頃十月中旬迄  
は、比較的手技の分量を減じ、晴天の時は戸外に  
出で、仲善く遊ばしむる方法を採り、其間に團體  
生活に慣れしめ、惡癖を善良に導き専ら個別保育  
につとめます。

幸當園の背景には鹽龜神社と呼ぶ神社があり、  
境内凡そ一町歩、右を見れば當地固有の鹽田あり、  
前面には田畑あり、隣は小學校の運動場に接せる  
地面を自由に使用する事を得るので、此處にて百  
二十名の幼兒は廣々としたる松生の通氣の善き處

にて、蝶の飛ぶを見るとか、松葉、樹木の落葉を拾ては、各自自發的に自然保育を受けます。

運動器械としては鞆、砂場、廻樂機等を備付てあります。木製馬、鐵砲、シングルベルス等の運動用具も時々與へます。また各組とも保姆の指導のもとに一定の作業を室内保育と同一に成し、食事たりとも敷物を用意して恰も遠足運動會に行きし心持にて、幼兒の樂しさは其顔にあふるゝばかりであります。園舎は保育室二、遊戲室一の狭きが故に廣きこの庭園を利用し、春暖國なるを以て又最も趣味多き自然物に接觸せしむる機會も多々あるを自覺して居ます。

雨天の時は室内にて手技をなしたり、繪本を見たり、靜かに談話をなして一日の保育を終ります。

最も社内即ち露天主義の保育は、第二期の中頃より寒氣も烈しくなりますと同時に室内保育となりますが、年長の組は特に第二期の中頃より保育の時間及び手技に重きを置き、漸次第三期に入り

て少しく嚴に保育し、何によらず幼稚園にて成すべき稽古はもとより、日常己が身につきての出來事、即ち股引及び足袋のコハゼ、靴の紐のとけたる等は、必ず自分でなさしむる様にし、最幼年たりとも自分で成さしめ、出來ざれば保姆が手傳すると云ふ有様にて、自發自製の念を教養してゐます。

是も個性や體格の強弱等によりて、實施上適當に扱ひます、最年長の者は第三期の終りにも近くなりますと、就學の準備として規律正しく保育致して居ます。

寒さの間、即ち十一月中旬頃より翌年三月の保育の終りまで、最も其年の寒さにもよつて多少の違ひはございますが、幼兒のお辨當を蒸して與へます。

其お辨當蒸溫器の構造は直徑一尺六寸五分高さ七寸五分のセイロに類したる圓形なるものを作り幼兒のアルミ製のお辨當箱を二重ねになせば恰度

一組のものが、ちやんと入つてしまします。お辨當の相違ひをさけるために蓋の上にそれ／＼姓名を記してあります。三組ですから三個を造り、其暖さは恰度よい加減のものが出來ます。それを各組へ運びます。

幼兒がお辨當を開けば、ポウツと湯氣が立ち、さながら茶碗蒸のそのの如く。幼兒も楽しく食します。このお辨當蒸溫器の出來ざる以前は、あとから持參せしものがダン／＼ありましたが、これが出来て以來は自分で朝より持ち來る様になりました。家庭の大半は商家であります故、多忙なる家庭の助ともなります。

## 第二の問ひに對して

當園にては毎年四月に九十名内外、既に本年の如きも八十名の入園者があります。申す迄もなく第一幼稚園の教育にさまたげとなるものは、付添人の付添でござります。如何なる幼兒も自分の身寄のものが居ると、直ちに依頼心を起しますから、

當園にては創立以來付添人を許さぬ方針を採つて居ります。現今にては。其主義を家庭に於て了解せるものと見へ、入園前より云ひ聞かせあるものか、幼兒自身にも承知し居るものとか、付添人を放す事の容易なる事は、かゝる所より起因するものと思ひます。入園の日より最初一週間位は、唯子供を室内に入れ思ふが儘に席を與へ、話をして見たり、名前を聞いて見たり、時には積木を貸したり、玩具を與へたり、繪本を見せて遊ばしめ、また子供の知れる唱歌を歌はしめ等して、兎角幼稚園になれしむる事につとめて居ります。當分の内は席も定めず、成る可く家庭に近き方法を採り、保育の時間をも定めず、談話もしたり、唱歌も歌つたり、蝶の飛ぶを見ては摺紙で蝶々をたゝんだり、隨意に楽しく新入幼兒をして、飽かせぬ方法を採つて居ります。何様新入幼兒は家庭生活が俄に團體生活に變更し、其狀況の急變に依るを以て、又間食の出來ざるにより、新入幼兒の大半は幼稚

園なるものを嫌ふ様になりますから、當園にては家庭に通じ、御辨當を多量に持參せしめ、晝食を少々早くすることに依り、體育上のため又間食の口さみしさを減ずる事を得る様にして居ります。而して、時々まゝごと遊びを利用して、菓子を

與へる事もあります。これも幼兒の通園を喜ぶ助となります。

特に入園當時は幼兒の個性別に依つてソレ々注意して扱ふことが大切と信じます。

## 東京 誠之小學校附屬幼稚園

### 第一

一、最幼年の組は其取扱上可成家庭と大差なからしめ度之を呼ぶにも可成姓を用ひず名を呼ぶ様(是は入園の際保護者に尋ね置候)致候

二、幼兒相互の親みによる快樂即朋友の味を知らしむる様

三、幼稚園の趣味を知らしむる様

四、母と迄は行かずとも他人として保姆なる者は之に準ずる慕はしき者なるを知らしむる様

幼年組に於ては以上の如き事に専ら力を用ひ方

便として之に遊戲手技の類を加味致し候へ共其成績に付要求の程度を極めて低く致居候

躰方に於ては柔順と云ふ事は早くより取掛り置度考居候へ其他は徐々に致し居候

中年の組は凡て要求の程度を少し高め時に命令的に仕事をなさしめ服従の練習を試み候事も有之候

最長年の組は最早幼稚園の生活に馴れ就學期も

近付ける幼兒のみ故誘導よりも自發的の事を好み  
凡ての嗜好も男女の相違著しく相成候故昨今之を  
男組女組の二つに分ち（尤幼兒數百名を越え候故之も二分する原因と相成居候）談話  
遊戲の内容を異に致し居候

談話

（男）お伽話よりも勇壯なる歴史的の話を  
（女）假作物語やお伽話の類

遊戲

（男）表情的のものよりも體操的の物或は競争  
（女）表情的のものゝ繩飛の類

此外他日學校教育を受くるに必要な習慣（注  
意、勤勉、規律、獨立等）を確實に附け置く事に  
力を用ひ居候故に擔任保姆も可成快闊なる意識の  
明瞭なるものにて且此等の目的を達せん爲其方法  
等につきて相當の工夫の才智あるものを以て之に  
充て居候

### 實施上の區別

幼年組は各兒個々別々の習慣性質を以て集り居  
る事故略之が統一も致し度保育實施上極端なる個  
人保育を致し候故同一の行爲も甲兒には之を禁じ  
乙兒には之を獎勵致す等矛盾せる事も少なからず  
候

個性觀察簿も此組に限り入園當時の狀況記入欄  
を設け保姆二名にて擔任觀察致し候

中年より年長組の幼兒は凡ての習慣も稍統一せ  
られ候事として追々一齊保育を致し或特殊の兒童を  
除くの外は、或一定の規律により實施致し居候昨  
今の如き保育終了期に近ける年長組に至れば又少  
し方法を更へ可成自治的に進ましめん爲幼兒の希  
望を採用し何事も幼兒より働きかけしむる様仕向  
け居候

## 第二

新入園兒に就きての經驗として別に申上ぐる程の  
事これなく候へ共年々歳々是に苦しめられ候結果  
之は入園許可の方法に工夫を致すに如かずと相考  
へ左記の方法を用ひ候處さしもの難關も漸く樂々  
と打越えらるゝ様相成候然し今尙し不足の點も有  
之現今考案中に候

### 入園許可の方法

一、四月入園許可すべき幼兒を一月頃より一週三

名乃至五名入園せしめ此幼兒の成績（幼稚園及

保母に馴染む）良好なれば或は一週間を出ずして一二名を入るる事あるも、先一週間内に馴れしむる様取計らふ事

一、四月に入りては保育終了生を出したる後の事なれば約百名の欠員を生じ居る故斯様な優長なる事も致し難く少くも一週間十名を入園せしめ時に十五名も入るゝ事あれども此時に常任の保

母二名の外に最年長組擔任の保母（例年四五の二ヶ

月は一之組を置

かす故に擔任保

母手明となる）及三之組擔任保母（四月は三之組は幼兒

保母一名になし一名

の手を明ける事とす）と都合四名附添ひ候故十名入

園致したりとて保母一人二名強の新入兒を一週

間内に手なつけ候へは宜しき次第と相成大抵豫

定通りに運び参り候六月頃迄には缺員を満し得

て幼兒も比較的早く幼稚園に親しみ候故茲に於

て幼兒の撰り分けをはしめ三之組に入るべきも

のと四之組に止むべきものとを定め（入園の初は年

齢に關せず最

## 保護者に希望

入園最初の日に家庭に希望する事を集めたる小冊子を分ち大略左の件につき懇談致し候

一、幼兒の成績如何は大部分家庭の助力によるものなれば母親は幼兒の爲多大の覺悟を以て幼稚園と提携し保育の目的を達せられんこと

二、故に幼稚園の方針及擔任保母の人となりを知られたき事

三、幼兒保育に關する一切の事は善惡に關らず腹藏なく御相談ありたき事

四、附添人は經驗上幼兒の爲にならざる事多く彼依頼心の増長するは其原因是にあるを以て充分人物を選択せられ度且幼稚園では途中の送迎に止め幼兒の側に附添居ることは入園の初一週間位とし或特別の事情あるものゝ外は一切謝絶の事

細事は之を略し大略御下問に對し御答右の如くに御座候が新入園兒中には非常なる難物二三名は

必らず有之其取扱方法は實に千差萬別年々新らしき問題を與へられ臨機應變の措置を致居候事に御

座候

○  
(一) の 答

當園は満四歳より入園せしむる事になつて居りますので、二箇年保育で御座います。現在之を年齢別に分けて、一組の定員參拾六名宛にして居ります。

當園の方針としては年少の組は之を二組にわけ一組貳拾名位づゝとして、二人の保姆が擔任する事とし、上の組になつてから合併して一組にした希望でありますが、種々の都合上未だ實施せられて居りません。要するに年少の組は人數を少くして、充分に個性を發揮せしめ、行き届いた世話をなし得る様にありたい考です。年長の組でも個

東京府女子師範學校附屬幼稚園

人々に重きを置くは勿論でありますが、小學校に進む頃となれば、共同作業にも幾分慣れさせて置きたいと思ひます。

幼児の年齢が幼なければ幼ない程、一樣に取扱ひ難いと思ひますので、年少の組には自由を多くとらしむる様にして居ります。随つて室内保育の時間なども年少の組は年長の組に比し短くしてあります。

なほ様方についても保育の事項についても、豫め大體の細目を極めて置いて、それにより適當にいたして居ります。この細目も基礎的練習を重んじて簡單なるものより順次系統たてゝ編製いたし



て居ります。その大要につき、婁方要目は「婦人と子ども」第拾六卷第一號に、手技配當表の大體は全國保育者大會の報告書に掲載してありますから御參考を願ひます。

## (二) の 答

毎年四月になると參拾六名の新入園児が御座います。幼兒を園内生活に慣れしむることについて豫め細目をたてゝ置き、園内の案内及備付品に對しての心得、園内の交際、園内のきまり、自己の身始末等について、機を見て幼兒に知らしむる様にいたして居ります。なほ辨當を携帶する迄の以前に特別練習器により挟み方の練習をいたして居ります。なほ四月に始めて入園する以前に新入園児の父兄の方に來て頂いて其婁方の方針や本人の氣質、體質、嗜好等につきうかゞつて置きます。保姆は主として氣質嗜好等につきて幾組かにわけて席をつくり置き、それ〴〵嗜好の遊び道具を備へて、すこしも早く附添の手を離す様にとめて

居ります。

大體右の様にいたす様になつてから、前よりも早く園にも慣れお友達も出来る様になりましたがいつも一二名むつかしい幼兒があつて困ります。左に一二むつかしかつた幼兒についての經驗を記すことにいたします。

○○といふ幼兒は入園調査の時にはなか／＼はつきりと答をいたし、いかにも元氣な兒らしい御座いました。ところが四月に登園して來てからは實に案外でした。附添の手をなか／＼はなれません。他の幼兒がもう附添の手をはなれて、ずん／＼遊んで居るのに附添の側にばかり居ります。そのくせ他の幼兒が面白さうに遊戲などして居りますと、チヨイ／＼いたづらなどいたします。或時はやさしく言ひきかせ或る時はつよくしてみました。がきゝめがありません。家庭でも種々心配してよく言ひきかせて登園させるのですが、すこしも効がありません。或時その

母親を呼び種々相談をいたしました。○○には窓の所で見せて置きました。翌日保母が登園して見ると○○はいかにもこゝした様子で砂いぢりをしてゐましたが、側には附添の影が見えません。保母は「○○さんけふはえらいですわね」と申しましたらほゝるんでゐました。其日また母親が來られての話に「昨日家へ歸ります」と『お母さん先生と何のお話をしたの』と聞きますから『○○やほんとに困つた事が出來ました。あんまりお附添の手を離れぬ兒は幼稚園に置かないと言はれましたよ』と申しましたら、ちつと考へてゐましたが『お母さん僕いますから先生にさういつて下さい。幼稚園嫌いでないだけどもきまりがわるいんだから、僕兄さんと一緒ならきつといきます』と申します。今日はどうかと心配して居りましたら朝早く起きて小學校の兄と一緒に登園いたしましたとの事その日から○○は附添の手をはなれて一人で登園する様になりました。

△△といふ幼兒はやはり附添をはなしませんい

ろく／＼檢べて見ると其幼兒の附添の乳母は△△の赤兒の時から育てたので可愛くて々々たまらず一寸も手離すことが出來ないので、園にも一緒にまゐるのだといふ事がわかりました。それから家庭にお話して乳母のかはりに他の附添と一緒に登園せしむる様にいたしましたら、直に附添の手をはなれて遊ぶ様になりました。××は年齢も一番幼く内氣な幼兒でやはり附添の手をはなしません。丁度園に兔を飼つて置いた時なので其幼兒が園に來るといつも兔の所へ連れていつて兔に餌をやらせました。しまひには家庭から兔の餌を持つて毎日來ました。其時には保母も一緒に兔の所にいつてお互に親しむ様にしました。其中に他の幼兒が大分慣れて來たので植物園に連れて行かうといふ事になつたので其兒に「お附添の手を離れない兒は一緒に行かれません」と申しました。しかし其時は保母がまけてしまつて××は附添同道で行きましたが其後間もなく、之が動機となつて附添の手を離れました。

# 灌 佛 の 話

## 村 尾 節 三

灌佛は毎年四月八日に、釋迦牟尼佛の生誕の日、沐浴せし儀に倣ひて、其像に香水を灌ぐよりの稱にて、又佛生會、浴佛會、龍華會とも云ひ、俗間にてはお釋迦の誕生とも云へり、推古天皇の御宇より始めりと云へと慥ならず、仁明天皇の承和七年四月八日に、律師傳燈大法師靜安を清涼殿に請して灌佛の事を行へり、此より以後恒例の儀式となり是日若し神事に當らば停止し、杜本當麻大神祭等の使を立つる日に當らば使を立つる事を翌日に延引して、灌佛の儀を行へり、朝廷にては、紫宸殿の母屋の御簾を垂れ、晝の御座を撤し、その跡に、山形二基を立て、糸にて瀧を落し、金色釋迦佛像一體を金銅盤の上に安置し、黒漆案の上に白銅鉢一口銀鉢四口を置き、五色の水を入れる、公卿始め女房等の布施を供へ、御導師の僧佛前の作法終り、鉢の水を一に汲み合せて佛に灌ぐ、次で公卿次第に進みて灌佛して禮拜す、院宮より大臣武家に至る迄行へり、寺院にては、花御堂とて卯花等にて飾れる小堂中に銅像の釋迦を安し、參詣者をして甘茶を小柄杓にて佛頂に灌がしむ、是日京都にては、花の塔とて、躑躅及び卯花を竿の先に結付け、九輪の塔の如くにし、戸外に立て、江戸にては、卯花を戸外に挿すの俗ありしが絶えたり、又甘茶を墨にすり、千早振卯月八日は吉日よ神さけ虫をせいばいぞすると云ふ歌の、虫の字のみを倒に書いて、廁等に張置けば、毒蟲を除くとの俗信あり、兒童の甘茶を飲むは禁すべきことなれど、灌佛の儀は存したけれ。

# 七 不 思 議

(三)

## 第五 偏善保育と貧弱者の養成

日は春めいて何となく生々とした心地の一朝、○○幼稚園を參觀に出掛けた。園長はやせ形でどことなく衰弱症ではあるまいかと思ふ顔色、沈着にして態度の正しさ、部下の保母さん方が一々の挨拶振りは、園長の型と相似て居る。園長さんが部下に命ぜられる言葉の柔かなうちに嚴なる併し陰氣勝ちなるは、少しく飽き足らぬ所があつた。

會集には第一に姿勢を直し、二三の幼兒に注意を與へて、君が代二回、中途でやり直しが三回に及んだ。

一同をまわりの腰掛に坐せしめて、一の組の遊戯半ばで、又々園長さんの注意。淳々として説かる所は宗教家に非んば儒者の弟子を導くが如く、幼兒は人形の如く、きちんとして居る。但し小さい目は不従順の働く様に見える、他の組の幼兒は

み な と

此の長い間膝に手を置いて、あゝびを殺して居る。年少の一名が泣きかけた、保母さんの一人がそばへ行つて、口が少し動いたと思ふと泣きやむだ。各組がかくして交代に出て演ずる。まあよく辛抱の出來たものだ。と感心の外は無かつた。

自由のお遊びとなつたが、他園で見る様に一向駆け廻らぬ。笑ひ聲も出ない。ちりん／＼となるとすぐにきちんと一齊におならびが出來て、お部屋へ入る。保母さんのすぐ後ろの幼兒が舌を出す。他の幼兒と顔見合はせて手まねで話しをする。保母さんの身振りをまねる。先生が幼兒の方を見渡すと幼兒は早くもきちんとつて、知らぬ顔の半兵衛さん。

談話の時間。實に乾燥無味でしかも年少の組でも道德味の含まれた寧ろ修身談。そこで姿勢を八ヶ間敷云はれる。小兒の心を察して見ると參觀し

ては居られぬ位。凡て人形を並べた様。自由のお遊でも室内の時も實に靜肅で、どうも物足らぬ事夥しい。

ふと氣が付いて幼兒の血色を見ると、園長さんの感化の偉大なる、顔色迄及んで居る。後ろ姿は時ならざるに秋の淋しさを感ずる位。晝食の參觀もそこ／＼にして、園長の御意見を伺ふことにした。

曰く、人は幼年より嚴格に育てねば後世恐るべき害を残します。我儘を省みぬ園も随分あります。が實に危険です。私の友人のうちでも私の主義に對しいろ／＼と忠告してくれますが、私は私の主義をどこまでも確信して居ます。

嗚呼危険なかな幼稚園の制度。前には放任の園を見、今は嚴酷なるを見る。

偽善、表裏明らかに幼兒の動作に見えた。大切なる第二の國民を誤つた自分の主義に育て、いぢけた、陰氣なしかも偽善な人間にしてしまふ。幼

兒の味方となつて、潑刺たる元氣と春の如き面貌と、嬉々して戯るゝ姿を見んとて來れる私の腦裡に、此有様の映した時の不快さ、殺人犯を目前に見る如き感が起つたので、一片の苦言を呈して倉皇として辭した。

十町も隔てぬ〇〇幼稚園へと飛込んだ。もうやり切れぬから助けて貰ふ積りで入つた。二三の幼兒は玄關で遊んで居て私の姿を見ると奥へかけ込んだ。「先生お客さま。」先生奥の方で「どうもありがたう」と受けて出て來られた。案内せらるゝまゝに應接所に入つた。今は食後のお遊び。園兒は八十名、お室の内で三々伍々話しをして居るのもあり、まりをついて居るのもある。遊園はと先生に伺ふと目の前にある。私はあまり狭いので他にありと思ふて居たので面喰つた。保育室が一つと小さな遊戲室が一つ。遊戲室の片隅に大きな机が二つと長い五人掛の腰掛が五つ。ちりん／＼お室へ這る。遊戲室は保育室兼用であつた。一組は積

木、一組は摺紙、實に舊式で年代付き、運動場には、六尺に三尺の砂場が淋しさうに番をして居る外何もない。お室から廊下迄隈なく見ても玩具は唯々三尺の低い戸棚に間ばらに列べてあるのみであつた。やがて歸りの時が來ると、先きを争つて廁へ行く、其様子の如何にもいぶかしいので、後について行つて見ると、男子の方が二人分、女子の方が二人分、まあこれで八十人がと驚いて、立つて居る幼兒を見ると待ちかねて居る様は目もあてられぬ。何たる不都合な親。何たる不幸の子。今日は如何なる吉日否凶日か見る園が皆此如し。二人の保姆さんにいろ／＼お尋ね（遠慮しつゝ）をして見ると、一つも要領どころか一切空、保姆さんと此園の設備とよくも似通つたものよ。幼兒も定めて貧弱症に罹つて居るのでせう。

## ○玉成保姆養成所卒業式

玉成保姆養成所にては三月廿六日午後三時より麴町區上二番町三六所長ソファヤ・アラベル・アルウキン女史邸に於て、その第一回卒業證書授與式を舉行しました。式は定刻より、奏樂、君が代、合唱、勅語捧讀、卒業生合唱（旅の花と摘草）、卒業證書授與、牧野男爵の祝辭演說、卒業生二名のピアノ連彈、卒業生一同の感謝の歌といふ順序で華やかに而かも肅然と執り行はれました。式後には内外人多數の來賓が式場と食堂と成績品展覽室とに錯雜して、アルウキン女史にお祝ひの言葉を申述べて居りました。卒業諸嬢の成績品の孰れも美事な出來榮であつたことは申すまでもありません。今回の卒業生の總數は十一名ださうであります。第一回の卒業生をして是だけの成績を挙げしめられた所長アルウキン女史の御苦心の程も偲はれて床しい卒業式で御座いました。（記者）

# 日本 幼本 年 の一本

## □倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪  
 と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類  
 なき繪雜誌です。殊に毎號教育的な手技附録を添  
 へます。

本誌は 玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を  
 兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、  
 何よりもよき友達となる。

### 定價

壹冊拾二錢    □半年    郵税共七拾五錢  
 郵税壹錢    □壹年    同壹圓四拾四錢

皇大  
 族典  
 記  
 畫念  
 報婦  
 報人  
 報畫  
 報少  
 報女  
 報畫  
 報報  
 日本  
 幼年

### 發行所

東京  
 橋  
 鍛  
 冶  
 橋  
 外  
 振  
 替  
 東  
 京  
 四  
 九  
 〇  
 〇

東  
 京  
 社

羽仁もと子主幹

# 子供之友

本誌は十分教育的に編輯された子供雑誌で御座います。記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。楽しんで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尙にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるる御家庭におすゝめ致します。

定價 半冊 十錢 分冊 六錢 稅 郵 婦人之人友社 振替 東京 雜司 谷番 〇〇六一



顧問 高島平三郎先生

# モドコ

## 本誌の四大特色

子供繪雑誌は玩具であると同時に教科書であります。お子様方がコドモを御覧になつてゐる間に物事を覚えお行儀がよくなること不思議な位です。



まじめで教育的なこと  
繪が叮嚀で美麗なこと  
お話が易しく面白いこと  
片假名のみで讀易いこと

合本出来

大正三年七月號より  
大正四年一月號まで  
大正四年四月號より  
大正四年七月號まで  
大正五年一月號より  
大正五年五月號まで  
大正五年七月號より  
大正五年十月號まで

コドモ社

電話番 町六一八  
振替東京二七九六三

東京市小石川區  
林町五十七

□定價一冊十二錢  
□郵税五厘  
□六冊郵税共六十九錢  
□十二冊郵税共一圓三十一錢  
□總て前金の事  
各集郵税共五十錢

羽仁とも子主幹

# 子供之友

本誌は十分教育的に編輯された子供雑誌で御座います。記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。楽しんで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尙にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるる御家庭におすゝめ致します。

一定半分の税も十  
冊錢年郵六錢  
婦人之人友社  
東京東區  
雜司ケ  
谷番〇〇六